

# 個別学習と連携したソフトウェアによる速読訓練

神田明延（首都大学東京）

湯舟英一（東洋大学）

田淵龍二（ミント学習教室）

キーワード：速読、学習ソフトウェア、ウェブ配信、個別学習、

## 1. はじめに～本発表の背景

本発表は昨年の第46回 LET 全国研究大会において研究報告をした「リーディング教材の提示法が読解速度と理解に及ぼす影響」（湯舟、神田、田淵 2006）に基づくものである。同研究は学習用ソフトウェアであるマルチメディアプレーヤー・ミント（以下ミント）〈[http://www5b.biglobe.ne.jp/~mint\\_hs/](http://www5b.biglobe.ne.jp/~mint_hs/)〉を利用して、特定の英文チャンク提示法が学習者の読解速度または理解度、および読解学習への動機付けを向上させる可能性があることを実験とアンケートを基に報告したものであった。アンケートでは、チャンクを順次提示していく方法により、英文を固まりごとに理解するようになった、返り読みしないで読むクセがついた、速く読もうと意識するようになった、などの意見が報告された。

本実践報告では、先の結果を受けて、英文読解への学習意欲と読解速度の向上が認められた提示法を利用した過去1年余りの授業実践と個別学習について報告する。

## 2. 授業実践の概要

本授業実践を行ったクラスは本発表者が出講する首都大学東京と創価大学の一般英語クラスである。それらはクラスが一定の能力試験により編成されているため、クラス内でのレベルが比較的均一化しているからである。

授業内の実践としては、先行実験で選定されたミントによる英文提示方法である、英文がチャンクごとに「現れる」形態（図1）と「現れ消える」形態（図2）をクラスごとに指定して速読訓練を行った。授業での速読訓練には、教科書の一部又は同様の教材をミント画面で提示させ読ませた後、内容理解を確認する活動を行った。さらに、一斉指導の際にも同様の提示法を用いたり、ピンポイント再生機能や、描画ツールなどにより強化され

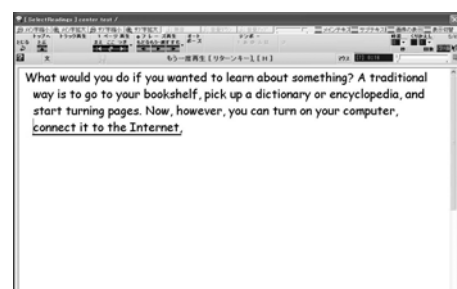


図1 英文が順次現れてくる提示方法



図2 順次現れては消える提示方法

た教員のプレゼンなどを行った。

また、ミントを用いた学習活動以外で、予想以上に反応が良かったのは、Google を用いた検索である。教科書に関連した情報を提示することで刺激になったようである。また、特に視覚的に訴えるイメージ検索では言葉で説明するよりも、画像で見た方が分かりやすい具体的事物の説明に有効であった。

次に授業外の個別学習では、一部ウェブシステムを利用してミントのファイルを配布し、教室外でも授業内と同じ提示方法で速読の訓練の課題に取り組みせるよう指導した。

### 3. 実践結果考察

1. で示した先行実験で見られたように、チャンクをベースとした速読訓練により、チャンクで意味を取る癖が身につき、返り読みを少なくすることが浸透したと言えよう。その一端としてポストテストの用紙にはチャンク切りを意識した書き込みが目立った。

また実践で利用したミント及びGoogle のイメージ検索などで視覚的に訴える情報提示が、学生の注意を引くという点で効果的であると思われる。

一方で、教室外の個別学習を行わせる環境づくりには困難が伴った。大別すれば、1) 著作権やライセンスに関連したコンテンツ使用許諾の問題、2) ウェブで個別学習用コンテンツを配布するシステムの問題、3) 学習者のモチベーションをどのように確保するかという問題などである。今回の実践では1)、2) をクリアしているクラスでは個別学習は可能であるが、3) の点で問題が多かった。その反対に3) はあっても1)、2) がないところでは教室内の実践で終わらざるをえなかった。

以上のようにミントを使うことで速読訓練に適した環境が得られるのに、最後の教室外での個別学習の環境づくりの障害が大きく、今後の大きな課題となろう。

(本報告は平成 18~19 年度東洋大学教材開発特別研究、及び平成 19 年度日本学術振興会科学研究費補助金の助成を受けた研究である)

### 参考文献

安藤進 (2004). 『Google に聞け! 英語の疑問を瞬時に解決』丸善.

湯舟英一、神田明延、田淵龍二 (2006). 「リーディング教材の提示法が読解速度と理解に及ぼす影響」第 46 回外国語教育メディア学会全国研究大会発表論文集, pp. 48-54.